



コンウイ

素材研究 (海外)



中世の濃密な雰囲気味わえる城郭都市 13世紀の商家などが往時のまま町並みに



周囲を360度見渡すことができるコンウイ城の塔



往時の繁栄ぶりを感じさせる城郭内の町並み



中世の騎士が甲冑姿で現われそうな夜のコンウイ城

コンウイ川と背景の山々に映えるコンウイ城

JATAのTeam EUROPE 観光促進協議会が今年6月に選定した「美しい村30選」に入った英国ウエールズのコンウイ。その象徴であるコンウイ城は13世紀前半に完成したもので、中世城郭建築の傑作とも言われ、1986年に世界文化遺産として登録されました。

自然の要害となったコンウイ川と山々

今から700年以上も前に建てられたコンウイ城は、中世に完成した当時の状態がほぼそのまま残されています。

ウエールズを支配するためにイングランド王のエドワード1世が築城したこと、3キロにも及ぶ城壁も造営されており、エドワード1世は最初から安い地代で商人たちを呼び込み、市を開かせたといわれます。堅固な城と城壁で商人たちを守る代わりに、商人たちには城を維持するための協力を約束させており、後世には市長が城代を兼務するまでになりました。

堀の役割を果たしたコンウイ川と背後の山々は、まさに、自然の要害として城の防御を固める形となり、街の中央部にあるセントメアリー教会をはじめ、幾つかの商家が往時のまま保存されるという僥倖をもたらしたのです。

木骨組みの街を歩くと、今でもかつての繁栄を感じることができ、現在ではなかなか体験できなくなってきた中世の濃密な雰囲気を味わえるのも、コンウイならではの魅力の一つとなっています。

日本市場で人気 destinations に

ウエールズ政府観光局のマン・アン・ニーツィ局長は、「ミンチエスターやロンドンから車や電車でも訪れることができるコンウイは、近郊の都市に4つ星ホテルも多いことから、グループツアーでも利用が可能だ」と説明。JATAの「美しい村30選」に入ったコンウイが日本市場で人気 destinations として成長することに期待を示しています。

4つ星ホテルのある近郊のスランデイデューノは、シーサイドリゾートとして多くの旅行者を集めると同時に、『不思議の国のアリス』の著者ルイス・キャロルが家族と休暇を過ごし、物語を着想した場所でもあります。アリスやハートの女王、マッドハッターなど登場人物の木像が街の随所に点在しており、『不思議の国のアリス』をテーマにした英国初のオーディオビジュアルによるウォーキングツアーも実施されているほどです。

ウエールズ州政府の中嶋竹春日本代表は今年5月に東京で開催したウエールズのチーズ&ビールイベントも注目を集めたことから、「日本からのツアーではウエールズの歴史と風土が育んだ独自の食にもスポットを当ててほしい」と呼びかけています。